

講義名	神戸の景観と歴史		
科目区分	教養科目		
担当教員	藤原 喜美子		
開講期・曜日・時限	前期 月曜日 5時限	授業形態	
履修開始年次	2年生	単位数	2
		備考	

主題と概要			
この講義では、本学が位置する神戸を対象に、「街の景観と歴史」を主題として紹介する。幕末の開港をはるかにさかのぼる兵庫津の湊、開港後の国際的な港湾都市としての役割、近代都市へ移行する神戸の歩みを取り上げたい。そして、私たちが日常的に接している風景の中に、堆積された歴史を考える視座を提供していきたい。			

到達目標			
講義の内容を理解した上で、神戸の魅力を自分で考え、自らが描く「神戸像」について、自分の言葉で他の人に話すことができるようになる。			

提出課題			
1. 講義では、毎回、感想文や授業の確認内容などを記入し、小レポートとして提出してもらう。 2. 小レポートとは別に、指定したテーマについて、レポートの提出を求める。詳細は別途、5月の後半、RYUKA Portalの教務掲示で連絡する（掲示後、提出までの期間は、約1か月とする）。			

課題（レポートや小テスト等）に対するフィードバック			
授業で書いてもらう感想文の内容は、提出後に授業などで、神戸に関わる事例として紹介する。			

評価の基準			
評価は、①平常点（各回の感想文や授業の確認内容を記した小レポート）、②レポートを総合して行う。			

履修にあたっての注意・助言他			
都市の来歴を知ることを通して、日常的に接している神戸を見直し、受講者各自が新しい神戸像を獲得してほしい。そのためには、講義を聴くだけでなく、神戸に関する新聞記事や図書館・書店の郷土コーナーにある関連文献にも積極的に目を通してほしい。また、講義で取り上げた神戸市内各所について、今後、また時間を改めて、見学ができるようになった時に、フィールドワークしてほしいと思う。			

教科書
. 使用しない。

プリント資料及び参考文献
プリント資料…各回、プリント資料を配布する。 ※資料を無くさないようにしてください。 参考文献…適宜紹介する。

授業計画
<ol style="list-style-type: none"> 1. 神戸と景観 <ul style="list-style-type: none"> 神戸の景観をどのように捉えるか 2. 灘と高砂湾 3. 六甲山の利用 4. 神戸開港と居留地 5. 北野と町並み 6. 神戸と浄水場 7. 兵庫港と兵庫運河 8. 兵庫津と廻船業 9. 兵庫津と西国街道 10. 兵庫と平清盛 11. 長田の町並み 12. 多井畑と信仰 13. 垂水と海 14. 有馬と信仰 15. まとの <ul style="list-style-type: none"> 私たちの神戸像

授業形態（アクティブ・ラーニング）	
	ア：PBL（課題解決型学習）
<input type="radio"/>	イ：反転授業（知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態）
	ウ：ディスカッション、ディベート
	エ：グループワーク
	オ：プレゼンテーション
	カ：実習、フィールドワーク

準備学修（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間
予習…次回の授業範囲の準備学習として、シラバスの授業計画に記してある授業のテーマを確認し、そのテーマについて興味のある事柄を1つ調べる（約1時間）。 復習…講義終了時、その日の講義内容を確認しながら、内容に関わる感想文を記入する。また、各自で、その日の講義の要点（キーワードやポイント）等を確認する（約1時間）。

双方向授業の実施及びICTの活用に関する記述
この講義は、板書・プリントを用いた講義の形式で進める。

実務経験の有無及び活用
実務経験あり。授業担当者は民俗学（生活文化史）に関わる現地調査や文化財保護業務の実務経験を有しており、その実務経験を活用し、地域の特性を紹介しながら授業を行う。

備考
この講義は、「神戸」に関わることは何でもテーマになる。各自が考える神戸の魅力を探すきっかけにしてもらいたい。また、書籍の中に記されていないことから魅力を発見する人もいると思う。今後、出かけることができるようになったら、実際に各自で神戸市内を歩く機会を増やしていただきたい。